

※2015年9月発行時点の情報です

突撃取材 **事業所** レポート! **第1回**

全国の事業拠点を訪問し取材するコーナー。社員のみさんから話を伺い、事業所の特徴や取り組みなどをご紹介します。

今回の訪問先は

鹿島事業所

[事業所PROFILE]

立地：茨城県鹿嶋市／鹿島臨海工業地帯にある鹿島製鐵所内
歴史：1970年に鹿島鉱工業(株)として操業をスタート
人員：98名(2015年7月31日現在)
主な特徴：他の事業所にはない微粉末工場を保有。整理整頓の行き届いた工場として評価されている。

[生産に関わる主要協力会社]

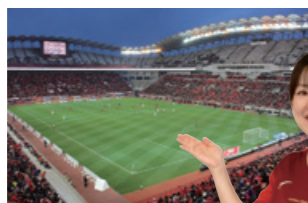
鴻池運輸株式会社 創業130年の東証一部上場企業。食品、機械、鉄鋼、医療など幅広いフィールドで独自の物流サービスを展開する。	扶和産業株式会社 鉄鋼スラグ・骨材関連製品を取り扱う商社。関西・関東に物流基地を保有し、独自のネットワークで陸上・海上輸送を担う。	株式会社高橋組 1960年設立。高炉スラグ処理作業、工場内設備等の洗浄と汚泥回収作業、産業廃棄物収集運搬などを担当する。
--	---	--



事業所近郊のおすすめスポット

鹿島サッカースタジアム

J1鹿島アントラーズがホームスタジアムとして使用するサッカー専用スタジアムです。約41,000人の収容が可能で、特徴はピッチとの距離が近く、迫力のある試合が観戦できることです。売店のB級グルメを食べ、ビールを飲みながら観戦し、試合に勝利した時は最高です。



鹿島神宮

緑の中にひととき朱色が鮮やかな「楼門」は、日本三大楼門の一つであり国の重要文化財です。鹿園の鹿は、世界遺産の春日大社の子孫と言われており、Jリーグ鹿島アントラーズの名前も「鹿の枝角」"アントラー"ということに由来しています。鹿島にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



28年間、社員の休業災害ゼロを更新。震災復興や海外のニーズに幅広く対応。

鹿島製鐵所において1970年に設立した鹿島鉱工業(株)を母体とする鹿島事業所では、98名の社員と多数の協力会社の方々が、スラグ製品の製造・加工・販売・物流に携わっています。徹底した安全対策で過去28年間の休業災害はゼロ。コンプライアンスを遵守した事業運営を推進しています。今号では遊佐所長、生産部の磯崎課長、営業部の笹木さんに事業所の特徴や取り組みについて伺いました。

取締役事業所長
遊佐 一巳



生産部
スラグ工場課長
磯崎 一彦



営業部 営業室
笹木 浩一



ミルや蒸気エージング設備などを活用しスラグ製品を製造。

— 鹿島事業所の概要や特徴についてお聞かせください。
遊佐 近郊からの採石量が少ないため、これまでは道路用路盤材の需要が多かったのですが、公共事業の減少とともに道路用の需要が減ったため、2015年度より水砕スラグの比率を高めています。合併前は高知や徳山など遠方へも運搬していましたが、これらの地域には和歌山・八幡で対応してもらい、その代わりに鹿島では輸出を増やそうとしています。鹿島港は大型船が入港できるため、運搬費の削減にもつながります。

当事業所には破碎・整粒の設備だけでなく、石臼をひくような原理で圧力をかけて水砕スラグを粉末状にするミルを保有。堅型のローラーミルで製造した高炉スラグ微粉末は主にセメント原料として利用されます。

— どのような体制で生産されていますか。

遊佐 社員は約100名ですが、複数の協力会社と直協連携して事業運営しています。製造はすべて社員が対応し、製品の積込・運搬・揺揚など物流業務は協力会社の請負です。つまり社員は操業・整備・品質管理・販売代行などのコア業務に集中し、それ以外の付帯業務は協力会社が担う分業体制としております。

禁止札など事故防止や安全管理を徹底し若手社員とのコミュニケーションを強化。

— 品質管理やコスト削減など、現場の取り組みをお聞かせください。
磯崎 異物混入やサイズの不備などを防止するため、製造前の点検を重視しています。網が破れていないか、ボルトに不備がないかなど。サイズの異なるものが入ると確認作業が必要になるため、事前のチェックは怠りません。

また、蒸気エージングではこの5年間で、蒸気原単位の約40%削減を達成しました。設備ができて20年経過しますが、当初から携わった諸先輩方のノウハウを共有し、その経験や手法を伝承しています。また小倉工場の技術を学び、横展開できたことも大きい。エージング設備には、蒸気で製鋼スラグを膨張させるための配管があります。旧住友金属のグループで非常に実績の優れていた小倉工場では配管や、蒸気の出る穴が工夫されている。いろいろと反対意見もありましたが導入を決意。すると、効率や品質面でかなり改善されました。小倉工場を見学したのは7年前ですが、その頃から処理量が増加しており、導入をきっかけに取り組みの姿勢がずいぶん変わったと思います。失敗を恐れずトライして成功したことで、メンバーの意識が変わりました。

スラグ破碎整粒設備。スラグが段階的に碎かれ、コンベアで運ばれる。



工場敷地内にストックされたスラグ製品。



▲ローラーミルで水砕スラグの粒度を細かくし、微粉末の状態に加工する。



▲蒸気エージング装置で処理されたスラグは、主に路盤材として利用される。安定した品質管理に加え、エネルギー削減にも取り組む。

▼徹底した品質管理を実施。



オペレーション室では工場全体の状況を把握し、生産を管理する。

▼人車分離により、歩道を設置して安全管理を強化。



—— 若手社員の戦力化についてはいかがですか。

磯崎 ここ4年ほどで社員が一気に若返ったため、年齢や経験に偏りがあり、中堅が少なくベテラン・若手が多い状況。そのためベテラン側に負荷がかかってしまいます。早期戦力化は急務の課題ですが、やはり安全の確保が最優先です。いかに経験を積ませるかを考え、若手とベテランを組ませています。マニュアルで習得できるのは手順や注意点くらいです。何故こうしなければならないかとか、疑問に答えるにはコミュニケーションが大事。困った時タイミングを逃さずに現場で教えられるよう、細かな指導を心がけています。

—— 安全面で重視していることは何ですか。

磯崎 最も徹底しているのが禁止札です。この取扱を間違えると大きな災害につながります。一気にプレーカーを50枚、100枚と電源を落とす際などは、2~3人で慎重に対応します。

遊佐 事業所の経営方針として「社協完全無災害の達成」を掲げています。たしかに現在、社員は28年間休業災害ゼロですが、事故や災害はいつ起きるか分かりません。そこで、さらに安全対策を徹底するため、平成25年11月に「OSHMS」という労働安全衛生マネジメントシステムを取得しました。これは外部の第三者による業務監査です。月1回の委員会を開催し、PDC Aをまわすため進捗のチェックやフォローを実施しています。安全対策はコンプライアンスの最重要項目と位置付け、今後も

強化していきます。

震災復興など幅広いニーズを把握して、需要と供給のバランス向上を目指す。

—— 営業の業務内容、やりがいについて伺えますか。

笹木 茨城・湾岸地区2社の販売代理店と協力し、発注から納品までをサポートします。お客様は、主に地元の建設会社や道路の施工会社です。まだ入社4年ですが、営業に配属され、たまたまとった電話が大きな案件でした。先月開通したばかりの圏央道という高速道路の仕事で、上司と一緒にお客様を訪問し受注につながった時は嬉しかったですね。

スラグ製品の強みは、山から採れる石やビルを取り壊す際に出るリサイクルコンクリートとは異なり、品質が一定で安定供給できること。品質管理や分析にも力を入れているため、自信を持って提案できます。一方、スラグ製品は鉄鋼の副産物で生産調整が難しい。また、景気動向や公共事業など需要は外部要因に左右されます。需要と供給を上手く調整するのが営業の課題。販路を拡大するため、販売代理店とは週1回定期的に打合せし、情報を共有しています。

—— 震災復興関連の取り組みについてお聞かせください。

笹木 新たに開発した製品が2つあります。「水と固化体」はスラグを原料としたコンクリートブロックのようなもの。これを港

湾用の資材として海の底に沈めて利用します。ニーズに応じた大きさ・形状にでき、そのまま船で運んですぐ使える状態で現地に納品されます。また、「エコガイアストーン(サンドコンパクションパイル用)」はゆるい地盤に砂の杭を打ち込むことで支持力を高めます。大手ゼネコンなどが販売先で、国や自治体との交渉も必要。製品の説明が重要で、営業の責任も大きく、やりがいがあります。

遊佐 今は震災復興の需要が多いものの、公共事業は減少傾向です。道路用、セメント用ともに需要が減っているため、海外への輸出を強化しており、東南アジアを中心に中東や南米まで販路を拡大しています。

—— 最後にひと言ずつお願いします。

磯崎 無記名で実施する社内アンケートによると、コミュニケ

ーションがよく取れているという結果が出ました。今後も風通しの良い職場づくりに力を注ぎ、新人、中堅、ベテラン、管理職が気軽に相談し合える事業所を目指したいですね。

笹木 無理なスケジュールを現場にお願いすることもありませんので、普段から現場との信頼関係を大切にしたい。また震災復興は規模が大きく、当事業所だけでは対応が困難です。今後はさらに、他の事業所との連携強化を進めます。

遊佐 協力すべきは生産だけにとどまりません。安全対策、コスト削減、作業効率化などグループの長所を共有しようと連携を進めています。合併のシナジーが発揮できるにはまだ時間がかかりますが、全社一丸で取り組みたいと思います。

—— 本日はありがとうございました。



様々なイベントがあります